

## 21 番 牟田議員

牟田議員／議長より登壇の許可をいただきました。

一般質問を開始します。

先ほど末藤議員が、見事な質問で、1番バッター、塁にでました。

私はチームプレーに徹して、送りバントで決めたいと思います。

つづく上田議員がまた塁に出て、最後、朝4番バッター、長議員がホームランという走者出走という流れが、きょうの流れになると思いますので、よろしくお願いします。

質問を続けます。

きょうの質問項目は、4つ。

1番、市民負担の軽減について、2番、道路行政について。

3番まちづくりについて、4番教育について。

項目分けてますが、例えば市民負担軽減は、まちづくりにも関係しますし、教育にも関係してきます。

いろいろ重複するかもしれませんが、よろしくお願いします。

1つめ、市民負担の軽減です。

余談にはなりますが、きのう、田代酒造跡の話がでました。

壇上で、私の発言の部分が言われましたが、当時、樋渡市長の答弁で、本当にもったいないということを待望していました。

たしかに当時反対しました。

なんであそこを買わないといけないのか。

市民負担の増減になるんじゃないかと。

そういう話をしてました。

あれは、長崎街道沿いだからと。

長崎街道沿いの古い建物を全部買うとですか？

いや、違う。

あそこは歴史的価値があると。

そこで、百武酒造さんの話を出して、向こうがもっと古いですよと。

うちの話は一切出してません。

ちょうど、思い起こせば谷口議員さんが、買うときに、歴史的価値はあるんだよと。牛を繋ぐ鼻輪がすごい珍しいと。

当時の街道沿いで、牛と車を繋ぐ鼻輪は珍しい、これだけでもすごいよ、とおっしゃいましたが、百武酒造さんもついていますと。

そういう話をしながら、反対しました。

きのうの答弁では出てきませんでした。その後の維持費のことが出て、その後あそこをどうするかというコンサル代ですね。

コンサル代が大分出ましたよね、当時を覚えている方はいますかね。

あそこをどうするか、コンサル代。

いま、さっき話題の井上さんですか。

結構な金額がいったと思います。

きのうは出てきませんでした、いろんな部分の市民負担の軽減で、やってきたいと思っています。

合併後樋渡市政になって、いろんな負担が減じられた。

先ほど末藤議員の答弁の答えの中に出ましたが、職員さんの減をし、そして借金を 100 億円減らした。

そういう話もでした。

直接、市民負担で水道料。

水道料は旧武雄市、昔から高いと言われていて、市民負担をなんとか減じてくれといわれていて、やっと実現し、5953 円が、4830 円、1000 円以上下がった。

これ月額ですね。

これで、平均 13.1%の市民負担が軽減されました。

次、固定資産税も 1.55%~1.48%本当に市民負担の軽減になります。

武雄市は知名度が上がりました。

本当に上がりました。

私のところにも連絡が来て、視察、図書館に生きたいんだけど、と。

いろんな方からきています。

その中で市民に対しては、市民負担の軽減が必要となってきます。

その中で2つ紹介しました。

これはエリアトークとあって、旧オフトークから新しく変わった小さいところですが、エリアトーク。

昔のオフトーク時代は月 500 円の負担があった。

樋渡市政になって、いろんな補助を受けてエリアトークに変わり、その 500 円が0になりました。

月 500 円ですが、年間 6000 円の市民負担が減になった。

いろんな部分で減になるということは、やっぱり市民の生活補助、福祉補助、いろんな部分で大切だと思っています。

今回の質問であります。

インターネットというのは、ものすごく加入世帯が増えています。

その中で例えば、個人負担、先ほど言いました税の部分、軽減されたもの多いです。

そして例えば、ガソリン代とか電話代とか電気代もそうですが、中々、市としてできない部分もある。

例えば、インターネットに接続する部分、これからものすごく増えてくるだろうという、

インターネット接続。

新庁舎もいろんな意味での、IT化も進んでいると。

そういうふうに、ものすごくインターネットは、年間払わないといけない負担の部分だと思いますが、このインターネット代についても行政は目を向けてもいいのでは、と思いますが、これを最初の質問にしたいと思います。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／私ですね、今までケーブルテレビを使っていたんです。

160のやつを使っています。

ぷつぷつ切れるんです。

これは事実です。

で、代えました。

フレッツ光。

爆速です。

たぶん、私の見解ですが、しかもフレッツ光が安いんですね。

圧倒的に安いので、僕は、人様におすすめすることはしないが、少なくとも自分が体感したものは行政に反映していこうと思います。

議長／21番 牟田議員

牟田議員／インターネットは、先ほど市長が言われました、ぷつぷつ切れる。

早いに越したことはない。

これから、情報、画像、動画、いろんな部分にくるので早いにこしたことはないが、例えば、今言われたフレッツ、この1ギガビット、ケーブルテレビは160メガビット。

つまり、1ギガビットの6分の1の速度しかない。

6分の1なのに、この値段。

ADSLは、NTTさんですけど、47メガビット3111円。

ケーブルテレビは30メガビット、47よりも低くて5229円。

大きく違ってきます。

例えば、ADSLでも同じ8ギガビットでも、契約で違うんですね。

1ギガビット契約したら、この値段。

47メガビットで、ここはギガビットですね、47ギガビットで3000円。

同じやつがありました。

8メガビットでADSLが2958円。

ケーブルテレビは8メガビットで、4704円。

どうですかね、皆さま方の感想は。

こういうふうに、大きな差がある。

大きな差があるけれども、地域間の格差があるんですね。

次のページ。

市内のインターネットの加入のあわせた数です。

1万7000世帯の中で、インターネットに7500。

爆速でインターネット加入は増えています。

今度は反転授業が行われますね。

その中でタブレット使った、小中学生は、必ず申し込みます。

その方が、大人になったときに、これと同数が、ひょっとするともっと増えているかもしれないので、今のうちに整備しないと行けないのが、今回の質問の趣旨です。

ものすごく多いですね、インターネット加入率。

若木町は50%。

ぶっちぎりで、それだけインテリジェンスと。

ちょっと違いますが。

こういうふうには、インターネットはものすごい加入。

ただ、なんでさっき、速度のことをいったかということ、やっぱり速度と容量が大きくないと、1つは企業誘致ができない。

企業は例えば、大きな会社、例えば、北方のインター若木にきたとき、いろんなところにこれがないと。

そして教育についても、昔で言う、双方です。

シリコンバレーなんて世界最高の水準を誇っています。

それを目指すと、こういうインターネットの情報インフラの基礎をしないといけないと思って、この質問しています。

次、市内で利用可能な通信サービスの規格。

例えば、ケーブルテレビ。

普及率が九十数%あって、全部、利用可能です。

NTT、フレッツ光、橘町、朝日町は1ギガビットが使えます。

若木町、武内町使えません。

東川登町、○付いてますが一部です。

朝日町も、一部です。

武雄町もだいたいのところはカバーしていますが、全部ではありません。

このへんは来ておりません。

ADSLは武内だけきてない。

ISDLはこれは電話ですから。

どういうことかということ、先ほど言った、武内町でも来てないけど、43%。

物凄く加入が多いです。  
来てないけど、多いですね。  
なんでかという、もう1度言います。  
これは、NTTさん単独での申し込みの分です。  
さすがに武雄市、朝日町多いですね。  
フレッツ、1ギガビット。  
ものすごくいいです。  
さっきいった、武内町は0です。  
若木町も85で、先ほど言った、50%越えているのに、85と少ないです。  
東川登町も少ない。  
なぜ、インターネット加入率は高いのに、こっちは0なのか。  
ケーブルテレビ、さっき言いました、朝日町、武内町は、フレッツがきているので、少ないですよ。  
加入率が。  
フレッツがきているので少ない。  
ところが、武内町は、ADSLしかないの、選択肢がないんですよ。  
こっちに入るしか。  
選択肢がないのは、独壇場で寡占状態です。  
武内町は、43%。  
圧倒的にケーブルテレビを頼らざるを得ないときに、どういうことかという、これを払わなければいけないようになっている。  
周辺部はそうです。  
そういうふうになってます。  
ですから、これを見ても、周辺部とか、武雄町にしても一部は来てないから、こういう形になっています。  
光化のエリアです。  
スキャンしたんですが、うつりが悪くて、光の済、済というのは武雄町の駅のところ。  
こういうところに武雄町はなっています。  
武雄町は、光済みです。  
この辺も、川良とか朝日町の一部はまだです。  
今検討中のところで、北方町が高速通信に入ってきてます。  
これが進めば、できれば、全市に広げていっていただきたい。  
全市に広がればどういうことかという、市内、くまなく1ギガビットの通信網があるし、例えば企業が、インターネット、IT関連の企業が、武内の空き家を借りてやりたい。  
そういうときに来たらすぐできるんです。  
なんでかという、全例があつて、徳島県神山町は、全町に広がります。

町の真ん中は家賃が高いので、周辺部の空き家を借りてインターネットのいろんなソフトを作ったり、いろんなサービスをしたりとか、どんどんできて、田舎にどんどん住み始めた。

田舎に住んだ人たちがランチを頼むんです。

地元のランチを。

これが、ランチが美味しいということで有名になって、またポツポツできる。

原始的な高速通信網を作ったからです。

話せば長くなるので、申し訳ないんですが。

これからさっき、反転授業の話をしたときに、武内小学校が反転授業を中止しそうになっている。

その中で、逆に言えば、インフラが整っていない。

若木町もそうです。

武内でやると、若木も、北中で一緒になります。

同じように扱わないと行けないので。

そういうふうにして、反転授業の成果がここで出るときに、情報インフラ整備がまったくできずに、寡占状態のまま、高いところにしないとイケない。

子どもがしたいよ、でも\*\*\*かもしれないよとなるかもしれない。

そういうことで、ごめんなさいね。

どういうふうにお金がかかります。

NTTさんは、今まで何でやらなかったのか。

NTT 単独では、予算が取れない。

収支が設備に合わないから。

どういう補助メニューがあるか、いろいろ調べてきました。

1つずつ読んでいくと長くなるので、こんなこれ全部総務省です。

総務省の最大2分の1補助です。

例えば1億かかれば、5000万。

3分の1もあります。

そういう補助も使って、もちろんNTTさんも負担されますから、そのうちの何分の1の負担で市は良くなります。

そういうことで総務省から出てます。

市単費じゃなくて、周辺部まで、周辺というか、できれば町の中が対象ですけども、できないか、ということと、交付金を調べて行きましたが、1番良かったのが、合併特例債。

特例債は新市建設計画の中に入れればできます。

ずっと読みました。

読んでいた中にこういう文章があって、公営住宅などの整備、情報基盤の整備という言葉、文言がきちんと入っている。

枠一覧の中に、情報基盤整備事業を確立します、という言葉も、新市建設計画の中には入っています。

これだと、合併特例債のほうが使え、市の負担も4割になるんですかね。

3割が4割になる。

さらに、NTTさんがそのうち半分以上は負担されますので、こんな事業を使い、できるだけ市民負担を、こっちになりますが、例えば、高い毎月の、先ほどの最初のやつは、月料金ですから。

素晴らしいサービスをうけて、ひょっとするとケーブル会社さんも競争でより良いサービスを作るかもしれない。

そういうようなことが考えられないか。

先ほど、反転授業のことを出しましたが、各小学校は、そういうタブレットがいきますので、情報等の中心になり、活力が出ます。

そこに、引っぱるだけ。

各学校を拠点に引っぱるだけでも、だいぶ違ってくる。

例えば、若木小学校、武内小学校、東川登小学校、そこなで線を引いて、超高速 Wi-Fi とか、そこから広がるのではないか。

そういう授業で。

最終的には、月々7000万とか。

負担をさせないために、電子的な情報インフラの整備。

そして、1つは、これは、先ほどの神谷町全町、高速インフラ入れたところ。

過疎化が進む懸念がありましたが、若者達に魅力が薄れる。

児童と生徒の授業内容に差がでるかもしれない。

都会に住んでいる人と。

先ほど言いました、まちづくりにも少しリンクしますよと。

できればこういうふうな、通信基盤整備をやっていただきたいのですが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／行政が積極的に関与していこうと思います。

やはり、今まで例えば道路が今までの旧来の社会的インフラだったと思いますが、インターネットの通信網が新たな社会的インフラだと思ってますし、それによって、医療、教育、さまざまなエンターテインメント含めそうですが、これなくしても、町の魅力イコールにならないです。

今考えているのは、小学生にタブレット配付をします。

そのときに、例えばこれ持ち帰りになるじゃないですか。

すると、そのエリアで Wi-Fi 環境が整っていれば、例えば、私の iPhone、何度か迷子になったことがあります。

置き忘れて。

でも、このパソコンでどこにあるかわかるんですね。

私の iPhone は、長崎駅まで行きました。

置き忘れてたんですね。

あ、ごめんなさい、佐世保駅まで行ったんです。

それを取りに行ったということがあります。

何が言いたいかというと、安全、安心の1つの切り札になるんです。

子どもたちが通学路から外れたときに、そこで分かるわけです。

だけど、今のままだと、若木町も、武内もできない。

安全・安心の切り札としてもやりたいと思っていて、全部、光をやるとなると、ものすごく値段がかかります。

1つ考えられるのは、若木町だったら、若木町の小学校と公民館のところまで光をつなげる。

それで、無線で飛ばすと。

今、規格がものすごいのが出てきて、11AC が出てきた。

これは、今まで、有線と無線だと、無線が遅いとされていましたが、今、ほとんど一緒です。

11AC は。

我が家でもそれやっています。

ここ数年で、無線が追い越すかもしれません。

ですが、拠点が近くにないと、話になりません。

その整備については、NTT に、開発を進めるようにお願いをしています。

こういった牟田議員から御指摘があった、国の補助金等を活用しながら、やっていきたいと思えます。

これによって、劇的に町の形が変わると思っています。

単に早いから、といっても、住民はあまりわからないと思えます。

こんなに良くなります、と。

それともう1つ、一番びっくりしているのは、医療です。

医療で、早い回線だと、例えば、レントゲンとか、見なくていいんです。

iPad で見れば分かるとか、動画でわかるとか、遠くの大病院にいかななくてもいいんです。

あるいは健康のチェックも、自宅にいながらにして高速のインターネット環境を使えばできるということで、大きくそちらに行政的に舵を切ろうと思っています。

具体的には、今度の公約で、しっかり出していきたいと。

それで、市民の皆さんに実際に選んでもらおうと、思っています。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／今、基盤整備があったところは、全然違うということが、これなんです。

市民負担の軽減をしたと同時に、この1ギガビットという数字は、大きい意味があると思います。

先ほど、答えて用意していたんですが、医療の話していて、用意していたんですが、医療が進めば、どんな僻地でも、それで、見てすぐその病院、例えば新武雄病院と連携して、すぐできるんです。

もう1つは、救急隊員、救急車も行ったときに、すぐに状況を伝えられて、こういうことをしなさいと。

画像と動画でできるんです。

血圧とかなんとかも、一瞬で送れる。

医療の面、周辺部も、ものすごく助かると思います。

さっき武内町の話をしました。

武内町は、えらばさざるをえない、この価格になります。

市民負担の軽減のためにもやっていただきたいと思いますし、武雄市は新庁舎構想で、ものすごく先進IT化になると思います。

内容は私、まだちょっとわかりませんが。

それを最大限に、武雄市全体に活かすためには、これの整備と一緒に進めれば、武雄市の新庁舎はさらに素晴らしいものになると思います。

ぜひお願いします。

では、次のページに進みたいと思います。

次は、道路行政についてであります。

若木の工業団地です。

ちょっと、グーグルアースでとったので、前のやつですが、今ここにタケックスさんが入っています。

状勢頑張ってくださいました、西濃さんが来られて、若木は全部、埋まることになります。

西濃さんが来られるには、この道路整備が、ものすごく最後の一押しになったと。

498の整備、女山トンネルができるから、そこが輸送になるんで、西濃運輸さんも工業団地も得意先があるということでは言われています。

498というのは、いまこういうふうに来てます。

パワーポイントであればいいですが、違うので。

ここに今セブンイレブンがあるんですが、セブンイレブンのちょっと先までしか、今のと

ころ計画されていません。

こっちは現道を使うわけですね。

女山峠ができて、現道を、交通量が大きくなると思います。

交通量が多いけど、そこからさきは現道を使うことになる。

この道を使うようになる。

ここからここまでの幅は約 35cm。

こっち側は段がありますが、そんな広くはありません。

この中を、大型とか、いろんなものが増えていく。

現道はそのままです。

今言ったところは、このところですね。

498 が途中までできたときに、現道の部分がそのままなのでどういうふうに、交通量の増大にどう対応するのか。

498 の今後の計画はどうなっているのか、この2点をわかる限りでいいので、教えていただきたいと思います。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／まず、498 の今後の計画について。

佐賀県の計画 2011 において、道路ネットワークの整備などを重点目標に掲げられていて、路線の1つとして、498 がなっていて、現在若木バイパスの整備が進められているところで

す。

その国道 34 号線の区間については、今のバイパスがある程度進捗した段階で検討したいと思っています。

また、498 のきせかえのほうで、年明けたら、すぐにでも。

若木バイパスの整備がすんだあと、現道の交通安全の対策として、現状の交通量が、バイパスに移りますので、現道の交通量が減っていくのではないかと、想定されていまして。

その部分については、併せて、要望をしていきたいと思っています。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／バイパスが、ここまで来る。

今、1日1万5000台～2万台だそうです。

もっと、何割増える。

大型が増えると。

ぜひ、先ほど言われたように、今後の新バイパスと、現道の部分を要望をお願いします。

ここから、ずっと横断歩道がある。

こっち側も狭い。  
今のを拡大しました。  
現道がこうなります。  
今言ったところの 498。  
これは、工業団地の出口です。  
武雄方面側の出口。  
これを、過去2回一般質問で出させていただいています。  
松尾議員さんも出されました。  
西濃運輸さんが来られます。  
これがさっき言った 498 のところです。  
前2回使った、質問の画像の使い回しです。  
こうやってきて、こう来てます。  
横断歩道があります。  
ここをちょっと、弓の字になっているので見にくいです。  
ここまで来て、やっと見えるので、ここですね。  
工業団地で西濃さんもこられる。  
そういうことでここに信号機やまずは、横断歩道をつくると、ひし形マークをつくれます。  
そしたら注意します。  
再度、お願いします。  
過去に2回質もして、3回目の質問ですが、途中、同じ質問をされましたので、全部で4  
回目の質問になります。  
進捗状況をお願いします。

議長／松尾政策部長。

松尾政策部長／議員さん御指摘の若木工業団地の南側の入口ですが、この地点の信号機の  
設置は、地元からの要望を受けまして、武雄警察署に要望を提出し、その後も働きかけを  
しました。

武雄警察署においては、公安委員会の管轄と、毎年、公安委員会に聴取をされているが、  
県内予算などあると思いますので、現在、実現に至ってないです。

市としましても、いずれも重要な地点を考えでございますので、今後とも、強く要望して  
いきたいと思っています。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／今、要望活動と言われました。

私も何回も要望書を届けて、話を聞きました。

これからも強くいって、西濃運輸さんもきます、交通量も増えるので現道のところ、要望をお願いします。

次は、女山トンネルです。

女山トンネルができます。

こっちが若木側、こっちが武雄側。

ごめんなさい、こっちが武雄側、こっちが多久側。

武雄側から上って、結構急な坂ですね。

大型トレーラーがきたら、10kmしか登れないような。

ここがSがずっと続いている。

この辺からトンネルがあつて、ここあたりに来ています。

だいたい1200m。

これが、多久側から撮った写真。

曲がった先から、トンネルがある。

なぜ、この画像を写したか。

道路整備ができていますね、多久側。

これがここからここまで、4m50。

後ろ側で。

こんどは反対側。

ここも1.8mほど、とってある道がある。

今ここまでできて、ずっと買収されてトンネルがあるところまで、こういう感じで、多久側はトンネルの完成に向けて進められている。

武雄側はどうか、若木側はどうか。

この辺から、ここにトンネルがあります。

ずっといきます。

ここからここまではあまり整備されていません。

この辺から広がって、整備されています。

わりと広く見えます。

ところが、これはさっき言った、多久側よりもだいぶ狭い側。

こっち側もだいぶ狭い。

ここで終わってるんですね。

ずっと何年も、このままで言っています。

ここから先、多くなるのは、橋があります。

狭いです、ものすごく。

大型もどンドン来ます。

さっきの橋のところです。

ここは、本部ダムです。

こういう感じで狭くなります。

質問はここまで言えばわかると思いますが、多久側はトンネルのそばまで、大きい歩道等、整備されている。

武雄側、若木側は途中で終わっている。

そのあとの部分が、どうか。

ここは、工業団地です。

これは、昔の交差点から、多久側のところ。

これも、ここまでで終わっています。

手前から 100m もない。

その先は、ずっと、昔もこのような、昔のまんま。

ですから、女山トンネル、車両もどんどん増えます。

工事に向けて車両が増えるので、どのような安全対策を考えているか。

もう 1 つは、今止まっているここからここまでの未整備地区。

車が増えることが予想されるけれども、未整備地区。

ここは子どもたちの通学路でもあります。

先ほど、西谷峠のことも言われました。

ぜひ、どうなっているのかお聞かせください。

議長／森まちづくり部長。

森まちづくり部長／女山トンネルの工事については、特に、土砂の運搬、武雄側の取得するので、残土処分の車両が頻繁に通過すると、これから完成すると通過車両も多くなるので、事前にいろいろな安全対策については今後、検討して、協議をしていくと言う形で話をしているところであります。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／トンネルはこれから、交通量が多くなるけど、そのままっていうのは、おかしいと思いますので、ぜひ、進めて欲しいですし、工事中もつくります。

関係地区、例えば、中山地区など、地元と一緒に協議して、どのような安全対策ができるのか、地元と協議して進めていきたいと思います。

次、まちづくりに入りたいと思います。

まちづくりは人づくり。

今までの質問も、高速情報インフラネット整備も、まちづくりに大きく関係します。

道路整備も大きくまちづくりに関係します。

若木町に末藤議員さんが来てもらいました。

いろんな所に来て、特に北川理事さんも、誘致企業とか、ものすごくまちづくりにプラスになる。

人口減の大きな特効薬の1つは雇用です。

それを役所さんが一生懸命に頑張っている。

誘致は企業だけじゃない。

いろんな観光客、大会。

それを引っ張ってくるのも、大きな誘致であります。

きのう、大きく新聞にのりましたが、若木ゴルフ倶楽部。

きのう、グーグルアースで、こんなきれいにうつります。

若木ゴルフ倶楽部さんに、佐賀県初、女子ツアーが来られると。

Tポイント女子ツアーですかね。

きのう、質問の中で、CCCさんも井上さんとか、そういうのは、やっぱり教育も質問しますので、あれですが、建設会社など、われわれ酒屋さんに、飲み屋に、同じような正式な場ではCCCさん、そういうふうには言わないといけない。

話がそれました。

こういう大会誘致は、ものすごく地元で起用します。

宿泊、そして観光、例えば若木町なら、いかにこうやって来ていただくか。

宿泊も。

いかに来ていただけるか。

このまちづくりの部分で1つめの質問ですが。

この大会誘致にいたった経緯、そしてその効果。

これをどう利用するのか。

お客さんに声かけて、飛龍窯や図書館がありますよとか、それをお尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これが、一番最初に佐賀新聞でね、佐賀新聞社さんは、講演までいち早く載せられたと思いますが、きのう正式に発表しました。

Tポイントレディースということで、発表されました。

これはものすごく反響がありますね。

ただ、きのうの谷口攝久議員の質問に、CCCの関係者が本当に悲しくなったと。

自分たちは、一生懸命図書館も、市民の皆さん達に喜んでもらおうと、一生懸命しているが、ああいうふうに議会の場でさげすむような発言をされて、本当に悲しく思いましたと。

武雄市は、そういう所ですね、と言われて、おそらく、谷口議員さんも、自分がここで呼ばれたら、どう思うか、もう少し考えないといけないと思います。

いっても無駄だとは思いますが。

それで、これがやっぱり辛いです。

私たちは一生懸命、来てくださいということで、1年以上前からわれわれとしては、CCCさんを含めて、例えば若木もそうですが、スポーツのね、議会でも上田議員さん中心におっしゃいますが、スポーツの大会ができないかと、ずっと働きかけていました。

その中で CCC、カルチュア・コンビニエンス・クラブさんが、ゴルフを武雄市図書館で大変お世話になっているのでね。

お世話になってるといわれるんですよ。

どっちがお世話になってるか、本当。

谷口攝久さんみたいな方もいますのでね。

それで、われわれとしては、CCC さんも含めてそうですが、いろんなアプローチをしていたわけですね。

ここで大きいのは、牟田議員さんをはじめとする、与党会派の皆さんですよ。

一生懸命 CCC に対しても、いろんなご協力、ご支援とかされているですね。

ですので、そういった議会の力をここで発揮できたと思っているんです。

その結果、CCC さんが、このように決定されたということと、私は聞いております。

今後及ぼす経済効果ですが、これ私が、誤解があったら訂正しますが、地上波のテレビ朝日さんが放映するということになっていきますので、この効果は大きいです。

それで、なおかつ、ブランドです。

町のブランドが、今、女子プロがスケートと並んで、最大のブランドらしいです。

広告効果に換算すると。

それは、お越しいただくということで、物凄く、ブランド価値が飛躍的に向上すると理解しています。

実際の数字ですが、去年の T ポイントレディース、鹿児島県で行われましたが、述べ 1 万人の方々が、起こしになったと。

3 日間で。

おそらく武雄はそれ以上の皆さんがお越しいただくことになるだろうと思いますので、これは武雄温泉だとか、武雄市図書館とか、若木の太楠もそうですが、さまざまに連動させようと思っていますので、そのときに大切なのは、お・も・て・な・しだと思っていますので、ぜひ若木町の皆さんも一丸となっておもてなしの体勢を整えていただく。

行政としては、最大限、さっきの答弁でも申し上げましたが、最大限応援しようと思っていますので、それでこれを、1年で終わるのではなく、来年も再来年もずっと、やっていただくようにわれわれとしても精一杯応援したいと思っています。

やっぱり、本当にこれはありがたいですね。

T ポイントの T は、TSUTAYA の T じゃなくて、武雄の T だと言い続けた甲斐がありました。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／新聞で出てから、電話のメッセージがくるんです。

あんた若木やったの？と。

例えばそこに決まった途端、事務局長さんも、私も行きたいと。

何人からも聞いていて、それだけ反響がすごいです。

1万人で武雄のキャパが足りないような感じで来られると思いますので、期待するところ  
ですし。

議長が、ゴルフ好きなんですね。

なんとか頑張ってみます。

余談になりますが、大きなまちづくりの1つです。

いろんな大会が、おらが村にきた、おらが町にきた。

佐賀県初のものが、自分の所に来る、同じ日にくる、テレビにもうつる。

これは、大きなまちづくりの1つだと思いますので、その中でCCCさんもお世話になって  
いる。

いろんところで、大会誘致、スポーツにしる、企業にしても、いろんまちづくりやって  
いただきたいと思います。

では、まちづくりの次に入ります。

これはですね、6月議会で質問しました。

体の不自由な方用の駐車場。

これですね、ちょっとすいません。

余談になりますけども、市役所、視察がいっぱい来られますよね。

視察がいっぱい来られる中で、たまに、知り合い来て一緒にしたり、あいさつして最後ま  
でいたり。

視察に来られた方が、私がしゃべった人、あとで連絡したりして。

皆さん言われるのは、もちろん、図書館とかFacebookとか、市長のことももちろんいわれ  
ますけども、職員さんがすごいということを、ほぼ100%言われます。

ちょっと余談ですが、今言いました。

これ、6月議会で質問して、なぜ今の話したかという、6月議会で質問して、帰りに私、  
スーパーに寄ったんですね、買い物しようと。

スーパーに寄ったら、すでに職員さんが私より先に来て、チェックしてるんです。

6月議会の終わった、私が質問したことを。

すぐ動かれていたんですね。

これ、やっぱりですね、今見せても健常者の人が駐められている方が多いです。

そして離れたところに妊婦さんが降りられて歩いて。

空いていたらここ、停められるなど思うんですけども、やっぱりこういうことで駐められず。

障がい者駐車場利用証、これを掛けている方は別にいいんですけども、掛けてない方の健常者の人が駐められるのが、本当に目に付きます。

これもそうですね。

6月議会で質問して、すぐ見に来ていただいて、十分考えますとのことで、おられていました。

例えば、こういうので武雄市は、こういうところに停めるのはだめですよなど、条例でもいいからお願いしますといわれました。

これも繰り返になります、外国ではこういうところに停めたら、レッカー車になるそうです。

ぜひ、この駐車場…。

うちの父も高齢ですので、足がそんなに強くないので、遠くにとめたらやっぱりきついですよね。

特に坂とかあったりして。

やっぱり、父はまだあれですが、こういうふうな不自由な方はやっぱり近くに駐めていただきたい。

ぜひですね、役所としてもこういう運動を進めて欲しいと思いますし、先ほど言いました6月すぐ来ていただいたことにお礼を申し上げるとともに、今後どういうふうを考えていらっしゃるのかをお聞きしたい。

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／実は、牟田議員さんが質問される発端となったのは、この庁舎での事件といたしましょうか。

そういうことが事実ございまして、当日、その案件があった即日にですね、職員には周知徹底ということで、喚起したところでは。

その後、公報等で掲載をして周知に努めているところでは。

市民に対してもですね。

現在のところ、パーキングパーミット(?)の協力の施設、これが市内にはですね、すでに114施設で御座います。

利用者の登録件数。

これが、今年の12月2日現在で、2092件あります。

そういうことで、かなりの多数の方が、かなりの多数の施設で利用されるという状況で御座いますので、今後とも職員はもとより、PRに努めていきたいというふうに考えています。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／一生懸命に動いていただいているのは感謝します。

ただ1つ質問で納得いかないのが、施設数は114、登録数は二千いくらということでありま

す。  
私が聞いているのは、健常者の方が駐められるのをどうやって駐められるのかを聞いている

んですよ。

数を聞いているわけではない。

それをどうするか、という質問です。

再度お願いします。

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／数を紹介させていただきましたのは、市内でも、利用する頻度といい  
ますか、相当高いということをおみなさんに紹介した上で、そういう状況で御座いますので、  
なおのこと、健常者が停めないように、これからも、啓蒙活動をアピールをですね、徹底  
的にやっていくという姿勢をもうさせていただきました。

議長／21 番 牟田議員

牟田議員／啓蒙活動。

ものすごく、動いてらっしゃるようなので、ぜひですね。

これは前に言いましたが、あるところは、車がきてセンサーで、ここは体の不自由な方の  
駐車場です。

健常者は停めないでくださいと、放送で言うところもあるんですね。

そういうような、具体的な啓蒙のところを、お金のかからない方法でやっていただきたい  
と思います。

次に入りたいと思います。

まちづくりの部分で、街路灯。

各町に防犯協会というがあつて、いろんなところのまちづくり交付金でつくってもらって  
います。

ただ、さっき言った200平方kmあるし、周辺部は家も少なく、暗いという話です。

こういうふうな街路灯、夜です。

これも田舎のほうの街路灯です。

ここに1個あつて、そのあとはありません。

この反対側を写真を撮ったら、何も見えない。

これは、フラッシュをたいていますが、何も見えない。

街路灯ですね、LED が出てきて、LED 単体のほうは、電気料はかからないけれど少し高くなる。

購入の部分に対しては、高くなる場所があります。

ぜひですね、こういう街路灯事業は、武雄市内には豊田合成さん、いろんなところで LED の業者がいるので、ぜひですね街路灯。

例えば提供で1年間で5～10件作られるから順番は決められているんですね。

順番は決められると思うので、いろんなところが必要になると思うので、ぜひ街路灯事業に力をいれていきたいのですが、どうでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／ご答弁申し上げたいと思いますが、ちょっとね、いままで私たちは、ちょっとこれ間違っていたんじゃないかと、思い始めました。

街路灯の、さっきの VTR でも出ていましたがすごい高いところにあるじゃないですか。

そうすると、費用も高くなるし、もうメンテもすごい大変なんですよ。

そうすると、コストの問題でなかなか付けられないというのがあったんですけども、夜ランニングをするんですけども、仙台かどこかでランニングをしていたときに仕事終わって、街路灯の位置が、この辺だったんですよ。

この辺で結構暗いところでもあって、その後に仙台市役所の方に聞いてみたら、そっちのほうがかかからずに、しかもメンテもなんて言うんですかね、楽に済むと。

割られる、いたずらの危険性は出て来るので、そこは全部良いことばかりではありませんと。

3m ぐらいの高いものよりは、ずっと置きやすいという話があったんですね。

LED だと、寿命も延びているじゃないですか。

ですのでフットライト、足下に置くものと、一番効果が高いものもあって。

中間のものを考える必要があると思います。

そうすると、1つしか付けられなかったのが、2つ3つ付けられると、それはそれで効果が出ると思うので、そこも含めて考えていきたいと思っています。

これについては、予算の問題もあるので、黒岩議員からも質問がありましたが、付けたいけど、なかなか付けられない場所もあるということがありますので、そんな簡単にできる話ではないと思うんですが、一旦われわれの見方をね、検証する必要があるだろうと思っています。

今、思い出したんですが、ちょうど私が総務省時代に出張したときに、イタリアに総務省のお金で出張させていただいたときね。

ローマから、まちづくりの現場ということで、ローマから 40km くらい離れたまちを見に

行ったときに、日本と違うなと思ったのは、電信柱があまりないことと、もう1つは街路灯が非常に低かったことというのがすごく印象に残っている。

そういうことも考えながら、もっと効率的に効果的に進められるようにと考えています。

議長／21番 牟田議員

牟田議員／なるほど、低い位置ですね。

そういういろんな考え方が。

高いところというのは、区長さんが防犯協会ですとか、はしごを持ってきてやったり、良い考えだと思いますので、ぜひやって、検証していただきたいと思います。

ありがとうございます。

次に、教育の部分に入ります。

教育は2点。

先ほど言いました、イントラネットの部分が、教育の部分に入りますので、今回は\*\*\*、みんなのバスというのをやっています。

上野議員さんが質問されていて、スクールバスに関していかななものか、ということで伺いたい。

スクールバスというのは、説明はいらないと思いますが。

スクールバスは今まで、買うのは行政が買うには、僻地補助。

さらに運営費は交付税措置されて、年間550万の1台につき。

1台につき年間550万の交付税処置がされます。

1台、550万年間運用の交付税措置が加算されます。

さっき言いましたスクールバスは、550万の交付税措置があります。

その中で、スクールバスを目的外、朝、夕はスクールバス、昼間は例えば市バス。

そういうふうな目的外は算定しないと、今までの通説でした。

ところが2012年、昨年から総務省からの見解が変わりました。

相談に応じてきた、運用が問題だったと。

しかし、今年の5月、各都道府県に有償で混同しても550万円を交付税措置はしますよ、とありました。

ということでルールを明確化されました。

どういうことかと。

朝、8時半までスクールバスで回します。

もちろんお金はとってはいけません。

9時から3時まで回して、みんなのバスみたいに、100円、200円でやることができます。

4時から、またスクールバスに戻ってもいい。

そういうことです。

例えばみんなのバスもあるが、そちらのほうに使えるのではないか。

今までは絶対だめだった。

目的外使用は交付税の算定措置外と言うことでしたが、例えば8時半までは子どもたちのスクールバスに回す。

9～3時まで福祉バスに使う。

そういうふうになるようになりました。

ぜひ、こういうのを取り入れ周辺部に役だて欲しいし、今のみんなのバスは緊急雇用事業、今は委託事業として使われている。

これだけ基礎算定措置が入れば、いろんなやり方にできると思いますので、スクールバスの制度が変わったことを利用して何かできないかと答弁、お願いします。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／これ交付税参入の話は別で、地元で話し合ってください。

スクールバスというふうになると、朝早くみんなのバスを使いたいという方もいらっしゃるわけですね。

例えば、病院に間に合うように使いたいとか、必ずそこで利害関係が出てきますので、そこは地元で一度話し合っていていただいて、若木町の区長さんを中心に話し合っていていただいて、我々としてはなるべくみんなのバスというのは、文字通りみんなのバスなので、そういうふうを活用していただく方向性が建てれば、きちんと応援したいと思っています。

まずは、地元で話し合っていていただければありがたいと思います。

これともう1つ。

これは、あれですかね。

若木の河内とか、あっちのほうを想定されているんですか？

議長／21番 牟田議員

牟田議員／想定しているのは、例えば、今言った若木町周辺部。

例えば、中山地区は子どもが1人でとか。

そういうのも想定されて、例えば若木町以外でもこういう事例が増えれば取り入れられるんじゃないかと、質問いたしました。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／これね、距離の問題があると思います。

みんながこうスクールバスを乗られても、さすがに違うでしょ。

あとは、距離と行程の問題です。

若木の場合は、結構中山間地域で、1回降りてまたのぼりますので。

もう1つ、みんなのバスの問題点は、最大で9人なので、それをぐるぐる回るのは基本的にありえないので、スクールバスというのは、超例外的にということと距離がこれくらい、高低差がこれくらいだと、納税者に説明できるようにしないといけない。

いくら国税措置があっても、その基準は大事だと思っています。

その中で、我々としては超例外的に活用できればいいなと思っていますので、このようないろいろ広げようという考えはあまり思っていない。

議長／21番 牟田議員

牟田議員／見解が変わったことで、今後、いろんな動きがあるかも知れない、そういう意味で紹介させていただきました。

今までは、例外が認められないのを認められるようになった。

ぜひですね、こういうのもいろんなヒントがあって、例えば使えるかもしれないので、ぜひ、頭の隅に置いておいてくださいと。

最後の教育です。

そろばん。

タブレットで授業されています。

そろばん人口が、ものすごく多かったのですが、もちろん昔は計算機がなかったのもものすごく多かった。

でも、2000…バブルを過ぎてですかね。

急激に減って、どんどん減り続けたと。

2007年くらいから今度は右肩上がりに増えている、ということでもあります。

日本は昔は九九がものすごく有名です。

先日武雄で、珠算大会があり、教育長さんも出たということで。

珠算の授業はタブレットと正反対になるが、インドの99、九九じゃないですが、3桁でも4桁でも暗算できるエアそろばんみたいな感じで。

こういうのが見直されているのではないかと。

やっぱり、僕もそろばんが苦手です。

3、4年生で授業があるがだめでした。

そういうふうな、私も計算機に頼る。

こういうのは、見直して良いんじゃないかと。

先日ちょっと、こういう授業の中で、珠算協会の人補助としてそういうことを教えていいですよと聞きました。

ですから、タブレットと正反対のことになるかもしれませんが、こういうのも、大切

じゃないか。

教育長さん、いかがでしょうか。

議長／浦郷教育長。

浦郷教育長／先日、県の子どものそろばんの大会が、武雄のほうでありました。

実際に見せていただいたら、本当にびっくりするくらいの状況でした。

もちろん、そろばんが上手だということすごいと思いましたが、もう1つは、集中力ですね。

これだけの集中力ができればいいなと思ったところです。

若木にありましたように、だいたいそろばんの学習は算数の教科からはなくなってはおりません。

3年生、4年生で、ただし足し算と引き算。

ほかの学習では、わかりにくい位どりの大事な部分を実際に球を扱いながら身につくという意味では、算数の力として欠かせないものということで、ちょっとずっと入ってきているありまして、時間数としては短いですが、ゲストティーチャー、あるいはアドバイザーとして入っていただくことは十分可能でありますし、全国的にもそういうことが行われていますので、今後、それぞれの学校にも紹介をしていきたいというふうに思います。

議長／牟田議員。

牟田議員／あらかた、きょうの御質問は終わりました。

ぜひですね、これからも武雄といますか、市負担の軽減。

インターネット、構造事業、市民の意志向上のために頑張っていたいただきたいことを願いまして、質問を終わりたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いします。

どうも、ありがとうございました。

議長／以上で、21番 牟田議員の質問を終了させていただきます。